

031 ナザレで受け入れられない

ルカによる福音書 4 : 16~30、マタイ 13 : 53~58、マルコ 6 : 1~6

16 イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日（→ユダヤ教の休日で週の七日目、神が天地創造を終えて休んだ日：創世記 2 : 2、3=土曜日）に会堂（→シナゴグ：ギリシア語「シュナゴグ」に由来し、「集会」を意味する／バビロン捕囚以降に広まったが、神殿とは異なり、生贄は献げない）に入り、聖書（→旧約聖書）を朗読しようとしてお立ちになった。



17 預言者イザヤの巻物（→当時の聖書は、羊皮紙などで出来た巻物に記されていた）が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。

18「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、 19 主の恵みの年（→ヨベルの年：7年ごとに土地を休ませる安息年が7回巡った次の年、つまり第50年目の年を言う。第49年目の年の第7月の10日（=大贖罪の日）に角笛を鳴り響かせ、聖なるヨベルの年の到来を告げます。ヨベルとは、「雄羊の角」（ヨシュア記 6 : 4）という意味です。レビ記 25 : 10）を告げるためである。」

→太字部分：メシア預言（イザヤ書 61 : 1~3）の一部（イザヤ書 61 : 1~2）

当時は、最低3節を朗読するのが通例だったが、イエスは2節の途中までの朗読で終わっている。

1 主はわたしに油を注ぎ／主なる神の霊がわたしをとらえた。わたしを遣わして／貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。打ち砕かれた心を包み／捕らわれ人には自由を／つながれている人には解放を告知させるために。

2 主が恵みをお与えになる年／（再臨の時に成就する預言→）わたしたちの神が報復される日を告知して／嘆いている人々を慰め 3 シオンのゆえに嘆いている人々に／灰に代えて冠をかぶらせ／嘆きに代えて喜びの香油を／暗い心に代えて賛美の衣をまとわせるために。彼らは主が輝きを現すために植えられた／正義の樅の木と呼ばれる（イザヤ書 61 : 1~3）。

→当時の会堂での朗読等の仕方：①~③

①トーラー（モーセ五書：創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）の朗読

①毎週どの箇所を読む（月曜、木曜、土曜日に朗読）かは、全世界のユダヤ人に共通して定められています。

②1年をかけて読み終えると、その喜びと感謝を表わす、律法の祝典シムハット・トーラー（下記「ユダヤの暦と祝祭日の一覧」を参照）のお祝いをする。ユダヤ教では、トーラーを毎週少しずつ読んでいき、1年かけて読み終えます。朗読箇所が決められているように、お祭りの日も共通です。このお祝いはイスラエルでは、仮庵の祭りから8日目のシェミニ・アツェレットに行われますが、聖地以外では9日目に行われます。

②ハフタラー（トーラーの朗読の後に朗読される預言書の部分）の朗読→17~19節

③奨励のメッセージ

※①②の時は立姿で行われるが、③では座して行われる。→20節「席に座られた」

※①~③は、会堂管理者（会堂長、会堂司）の指示で行われる。→使徒言行録 13 : 14~15

パウロとバルナバはペルゲから進んで、ピシディア州のアンティオキアに到着した。そして、安息日に会堂に入って席に着いた。①律法と②預言者の書が朗読された後、会堂長（会同司：口語訳）たちが人をよこして、「兄弟たち、何か会衆のために③励ましのお言葉があれば、話してください」と言われた（使徒言行録 13 : 14~15）。

20 イエスは（聖書朗読を終えると）巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目が（どこか普通の説教者とは見えない）イエスに注がれていた。
→するとある女中が、ペトロがたき火に照らされて座っているのを目にして、じっと見つめ、「この人も一緒にいました」と言った（ルカによる福音書 22 : 56）。

21 そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した（→今、待ち望んでいた「終末の時代」が到来した＝イエスのメシア宣言）」と話し始められた。
→「この聖書は今日なんぢらの耳に成就したり」（文語訳）←ギリシア語の直訳に近い表現
「この聖書は、あなたがたが耳にした今日、成就した」（回復訳）

22 皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」
→この聖句から、①イエスは噂通りの、否、それ以上のお方である、②「いったいどうなっているのだ。（小さい時から知っていた）ただのヨセフのせがれではないか」（リビング・バイブル）と二つの全く別の反応（①積極的な期待：少数派／②見下し：多数派）があったことが推察できる。

23 イエスは言われた。「きっと、あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウム（→ガリラヤ湖の北岸にある漁業の町で、強制的に徴税を行うローマ兵が拠点としていた場所で、イエスは宣教開始後、ナザレからカファルナウムに移動した）でいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」

→医者よ、自分自身を治せ（＝癒せ）Physician, heal thy self. : 医者は患者に養生を説くから、まず、自分自身を律せよ。つまり、立派なことを言う人は、自分も立派でなければならない、あるいは、名医であることを証明するために、先ず自分の病を癒してみろ、という皮肉が込められた意味です。→「紺屋の白袴」（人の白い袴を紺色に染める紺屋—こうや／こんや：江戸時代の染め物屋—が、染める仕事に忙しく、自分は染めていない白色の袴をはいていることから、転じて、他人のことにばかり忙しく、自分自身のことに手をかける暇がないということを使う。）



24 そして、言われた。「はっきり言っておく。預言者は、自分の故郷（こきょう）では歓迎されないものだ。
→言は、自分の民のところへ来たが、民は（メシアを）受け入れなかった。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた（ヨハネによる福音書 1 : 11～12）。

25 確かに言っておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、26 エリヤはその中のだれのもとにも遣わされなくて、シドン地方の（異邦人である）サレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。

27 また、預言者エリシャの時代に、イスラエルには重い皮膚病を患っている人が多くいたが、（異邦人である）シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」
→25～26 節から、神は異邦人を含めたすべての人々に目を注いでおられることをイエスは示した（列王記上 17 : 1～15、列王記下 5 : 1～14）。

28 これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、29 総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。
30 しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。

【参考】イザヤ

イザヤ（「ヤハウエは救い」、「ヤハウエの救い」という意味）は、預言者の中、最大の人物と言われた。アモツの子（列王記下 19：2）としてエルサレムで生まれ育ち、王ウジヤの死んだ年、BC 742/740/735 年 20 歳の頃（イザヤ書 6：1～13）にユダ王国の首都エルサレムで預言活動を開始した。最も新しい預言は、BC 701 年のアッシリア王センナケリブによるエルサレム包囲（イザヤ書 37：6～7）であることから、約 40 年にわたり預言活動をした。伝説によれば、マナセ王時代に殉教した。

【参考】ユダヤの暦と祝祭日の一覧

	ユダヤ暦月	西暦月	祝 祭 日	内 容
1	ニサン	3- 4	ペサハ（15-21 日）	過ぎ越しの祭り
2	イヤール	4- 5	ラグ・バオメル（18 日）	オメルの 33 日目
3	シバン	5- 6	シャブオット（6 日）	七週の祭り
4	タムーズ	6- 7	***	***
5	アヴ	7- 8	ティシャ・ベアヴ（9 日）	神殿崩壊日
6	エルール	8- 9	***	***
7	ティシュリ ティシュレー	9-10	ローシュ・ハシャナ（1-2 日）	新年
			ヨム・キプール（10 日）	大贖罪日
			スコット（15-21 日）	仮庵の祭り
			シムハット・トーラー（22 日）	律法の祝典
8	マルヘシュバン	10-11	***	***
9	キスレーブ	11-12	ハヌカ（25 日）	光の祭り
10	テベット	12- 1	***	***
11	シュバット	1- 2	トウ・ビ・シュバット（15 日）	樹木の新年
12	アダル	2- 3	プリム（14 日）	エステル記の祭り

参考：ミルトス